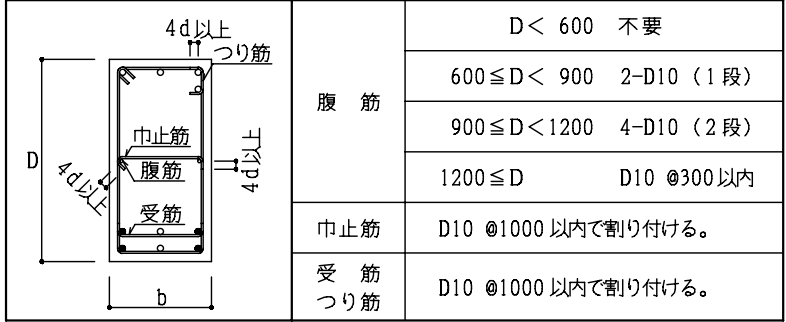


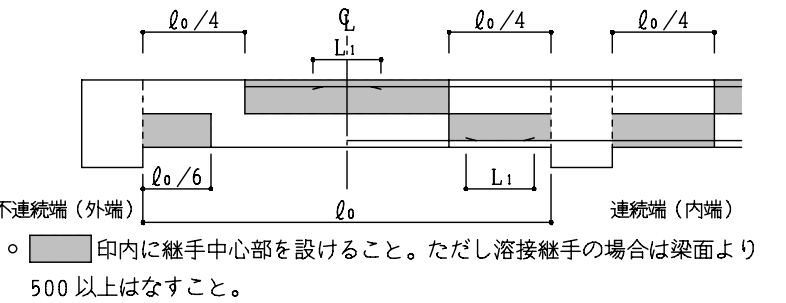
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 2009年度版

4-4 補助筋

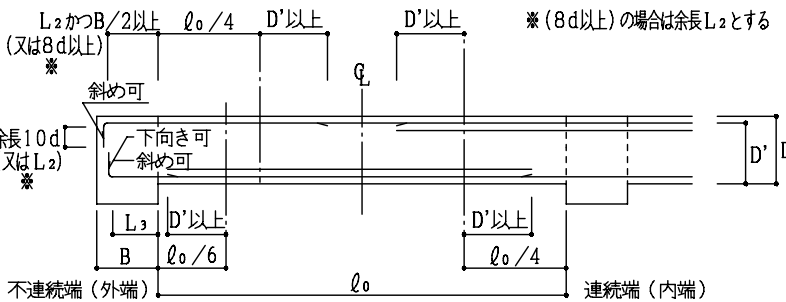


4-5 小梁及び片持梁

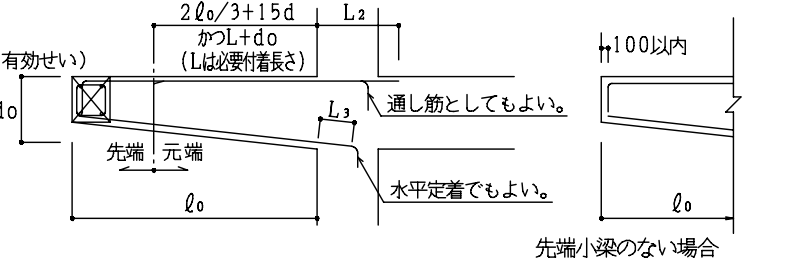
a) 小梁継手



定着



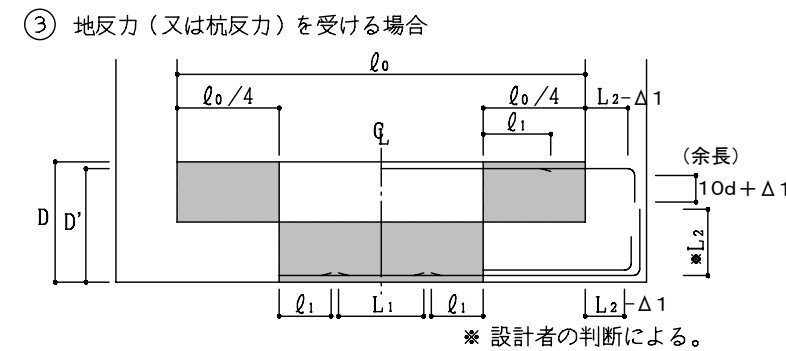
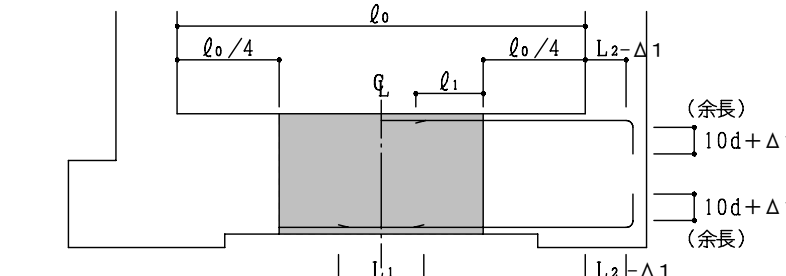
b) 片持梁継手



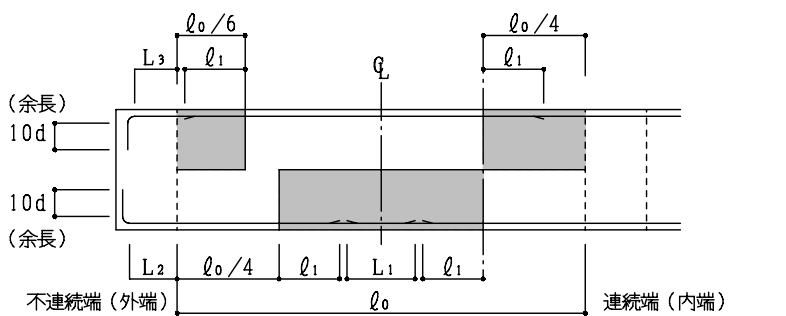
4-6 基礎梁及び基礎小梁

a) 基礎梁の継手及び定着

- ※ 地反力を受ける梁は設計図に示す。
- ① 地反力を受けなく、床など上載荷重を受ける場合は(4-1)(4-2)による。ただし、余長は $l_1 \geq \min(D', L_2)$ とする。
- ※ 余長 D' は構造計算によって確認すれば、それによってもよい。
- ② 地反力及び上載荷重を受けない場合。



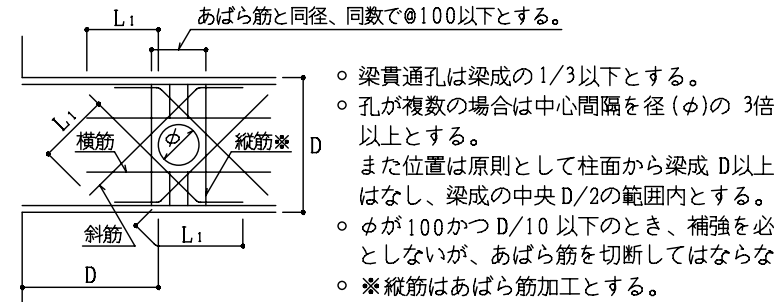
b) 基礎小梁の継手及び定着



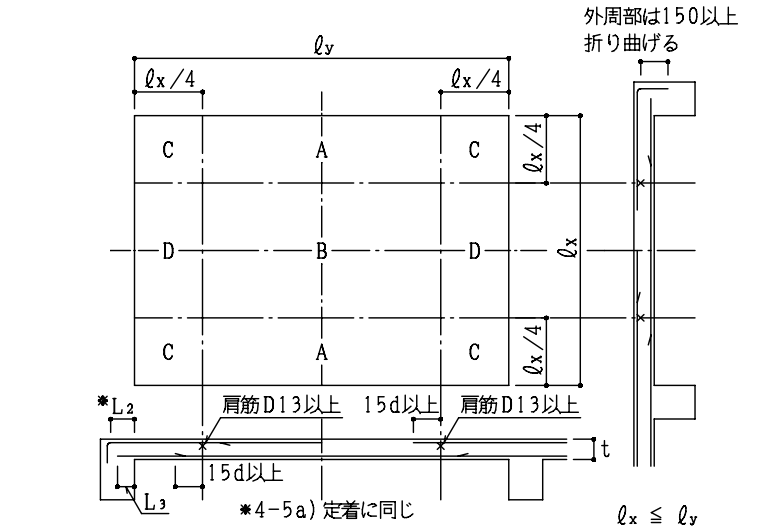
- 印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は柱面(基礎小梁の場合は梁面)より500以上はなすこと。 L_2 は2-3-3によつてよい。

4-7 梁の貫通補強

1. 補強筋は原則として工場製品(認定品)を使用する。
2. 認定品を使用しない場合は下図によるが、補強筋は設計者の指示による。



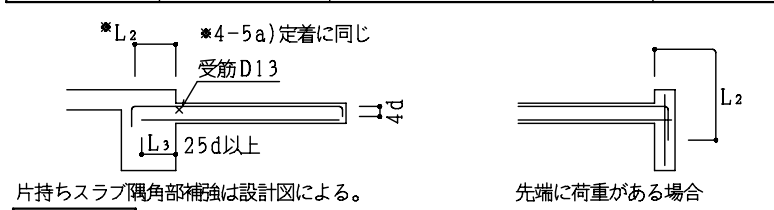
5-1 鉄筋の折り曲げ及び定着



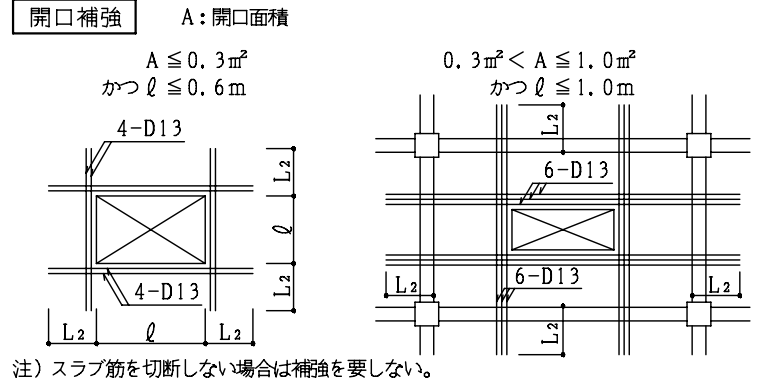
5-2 継手

継手位置は原則として下表によるが、右図でもよい。	
上端筋	短辺方向 B D 長辺方向 A B
下端筋	短辺・長辺方向 A C D

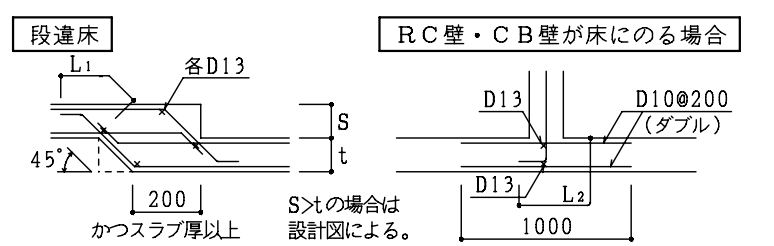
5-3 片持ちスラブ



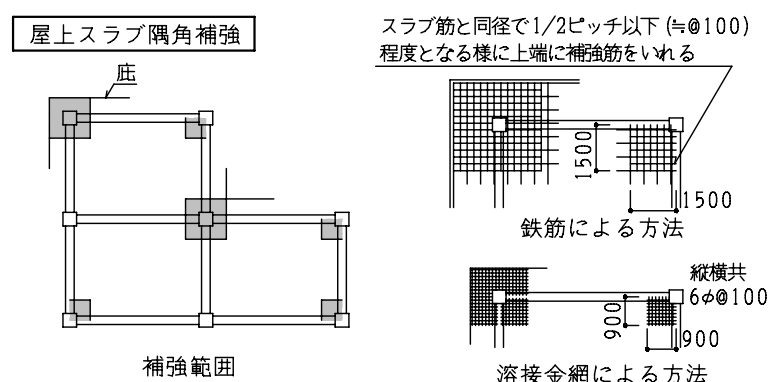
5-4 補強筋



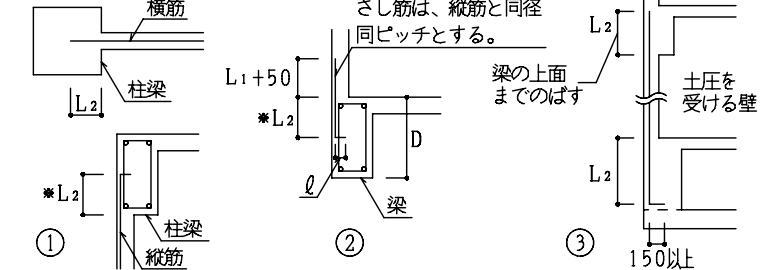
5-5 段違床



5-6 RC壁・CB壁が床にのる場合



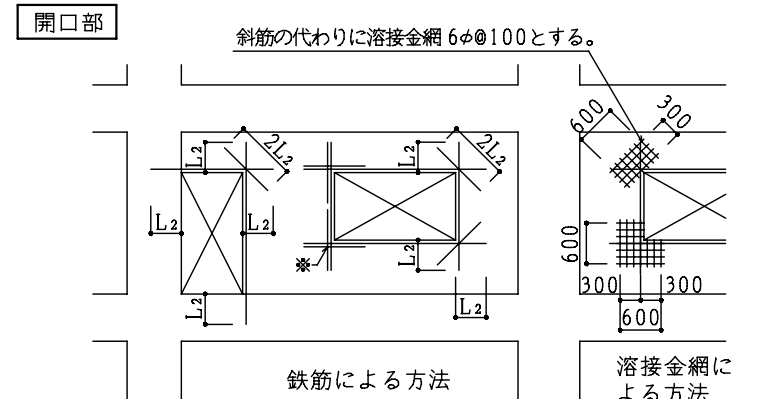
6-1 定着及び継手



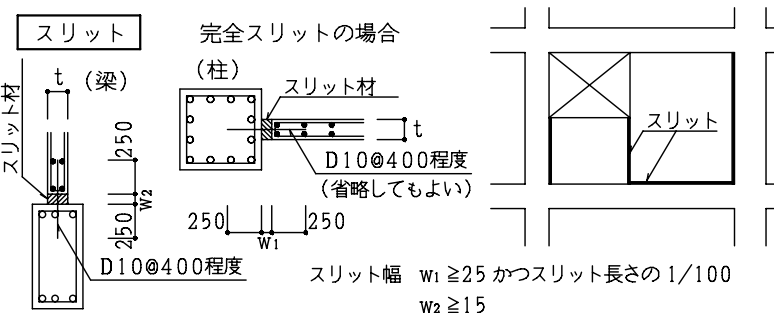
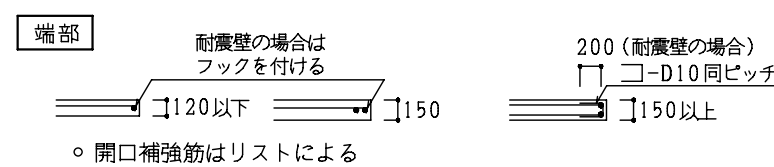
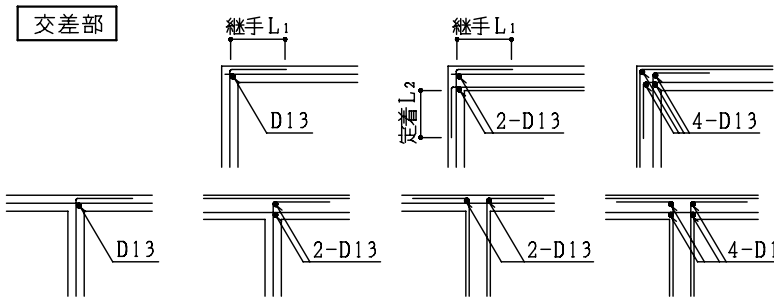
6-2 壁配筋

6-3 補強筋

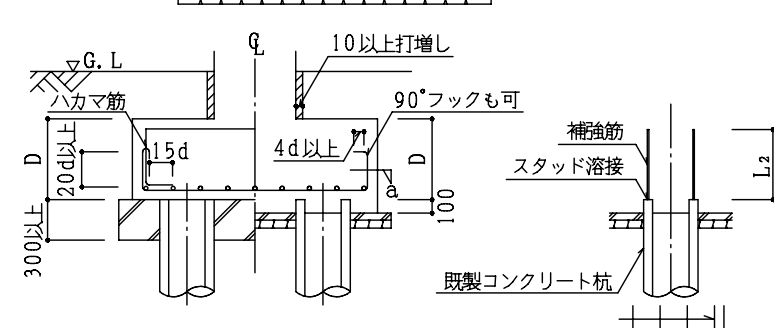
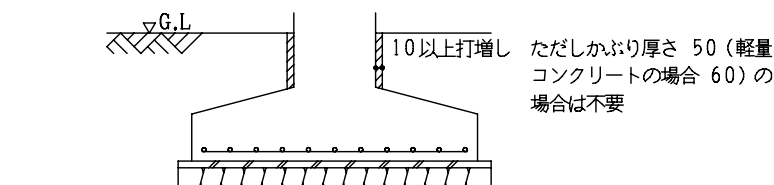
- 定着長さは L_2 、及び継手長さは L_1 とする。
- ※ ただし耐震壁で帯筋、あばら筋の内側に定着できない場合は、 $l=150$ 程度 $45^\circ \sim 90^\circ$ 折り曲げ、定着長さは L_2 かつ $D/2$ 以上とする。(通し配筋の場合は不要)
- 土圧を受ける壁の外側鉄筋の定着は③図による。
- 継手位置はどの部分でもよいが、土圧を受ける壁は5-2項の土圧面側を上端筋側に読み替える。
- 壁の配筋は設計図書による。
- ダブル配筋では巾止筋を縦横共 $D10@1000$ 以内を標準とする。



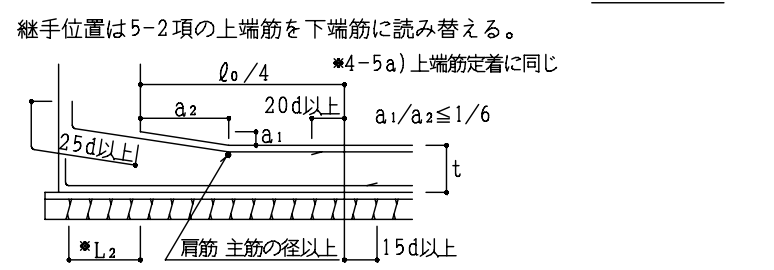
- ※ 斜筋を縦・横補強筋でおきかえる場合は設計者の指示による。
- 斜筋は内側に配置する。壁筋を切断しない場合は補強を要しない。



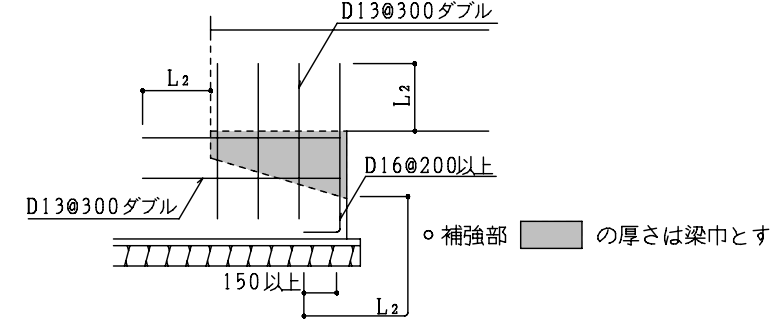
8-7 基礎



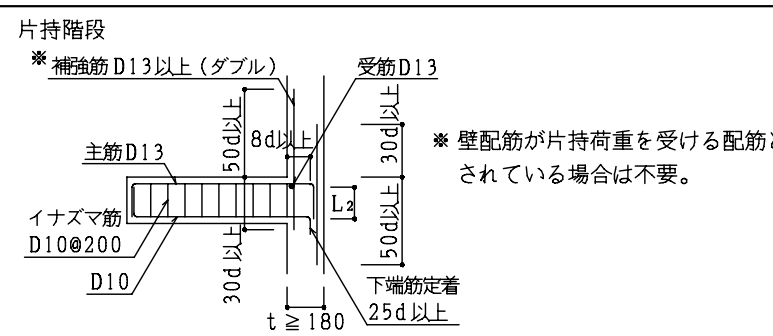
- 1本杭で偏心していない場合は、上立り筋不要
- 杭頭補強筋は設計図による。
- 杭頭を切断した場合の補強は、設計者の指示による。



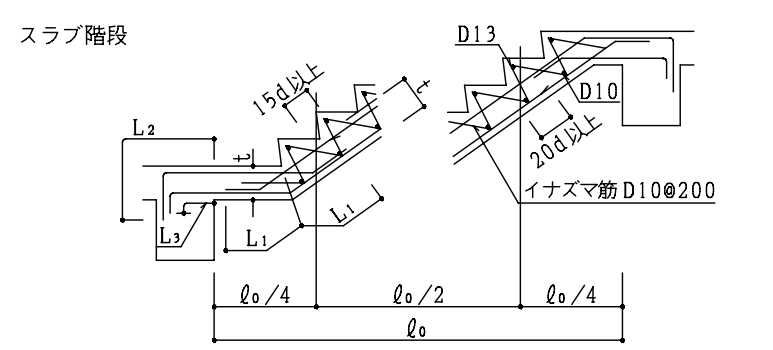
7-4 基礎と基礎梁



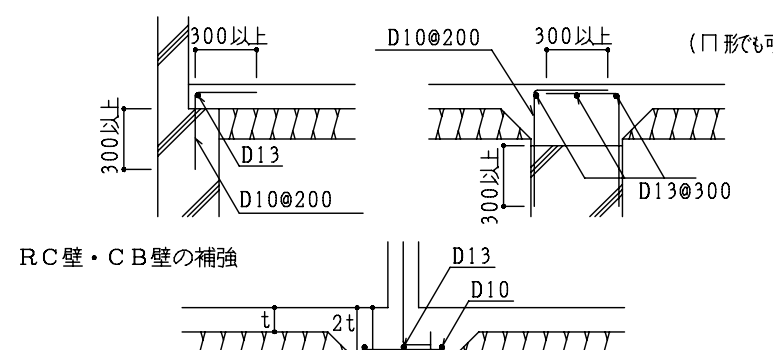
8-1 階段



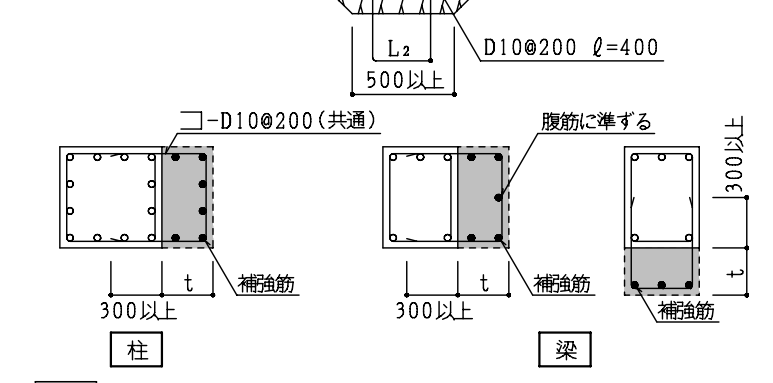
8-2 土間コンクリート



8-3 打増し補強

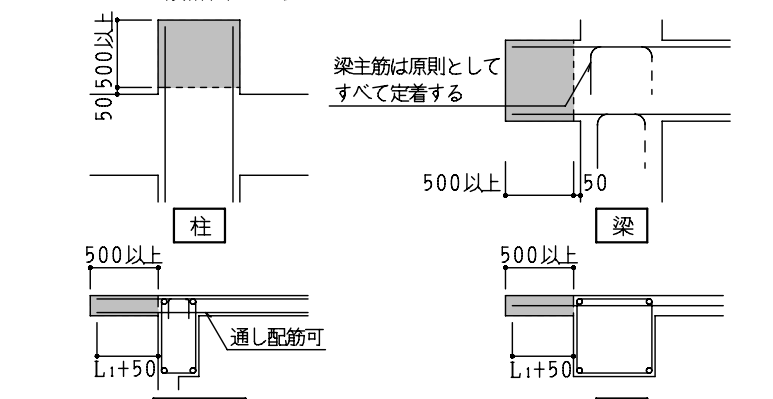


8-4 増築予定



- は打増し部分を示す。
- 補強筋(定着は20d以上)
- $t \leq 50$ 補強なし
- $50 < t \leq 100$ $D13@300$
- $100 < t \leq 200$ $D16@300$
- $200 < t \leq 300$ $D16@200$
- $t > 300$ 設計図による

8-5 増築予定



- は、はつり部分を示す。
- 増築時の継手は、原則として柱・梁の主筋は溶接継手する。(増築側の鉄筋は水平定着でもよい。)